

～子どもならびに子どもに接する成人への接種に対する考え方～に関するQ & A

川越市においても、12歳以上の子どものワクチン接種予約の受付が9/8(水)より開始されます。接種を考えている方はご一読ください。なお、掲載した内容は7月15日付けに公開されたものです。最新の情報に基づき内容が変更になる場合もあります。また、この内容は、新型コロナワクチンの接種を強制するものではありません。

【要旨】

- ・子どもを新型コロナウイルス感染から守るためには、周囲の成人への新型コロナワクチン（以下、ワクチン）接種が重要です。
- ・健康な子どもへのワクチン接種には、メリット(感染拡大予防等)とデメリット(副反応等)を本人と養育者が十分理解し、接種前・中・後にきめ細やかな対応が必要です。

Q. 健康な子どもでもワクチン接種を受ける意義はありますか？

A. 受ける意義はあると考えています。ただし、接種にあたっては、メリットとデメリットを本人と養育者が十分に理解していることが大切であると考えています。

【メリット】

①海外の小児への接種経験からの情報では、ワクチン2回接種後、ワクチン接種群で新型コロナウイルス感染症を発症したのは0/1,119人に対し、ワクチンを接種していない人では18/1,110人が新型コロナウイルス感染症を発症したという報告があります。この報告から、新型コロナウイルス感染症に対する高い予防効果が期待されます。また、ワクチン接種後の抗体価は16～25歳に比べ12～15歳のほうが高かったという結果です。

②自分自身が免疫を持つことが周囲の人を守ることにつながり、大勢の人がワクチンを受けることにより、流行を抑えることができます。

【デメリット】

国内の医療従事者の調査結果をみると、接種した腕の痛みや重み・倦怠感・頭痛・発熱などの症状がみられると報告されていますが、いずれも2～3日で軽快しているようです。まれに、接種直後にアナフィラキシーという重度のアレルギー反応が起こることがあります。そのため、15～30分間、接種会場で様子を見る必要があります。

Q. ワクチン接種後に発熱した場合、学校に登校させてもいいですか？

A. 登校は避けてください。発熱は副反応だけが原因だけではない可能性がありますので、接種した医療機関やかかりつけの医療機関などに相談してください。国内の医療関係者を対象にした健康調査の中間発表では、ワクチン接種後の発熱は、接種後翌日までに起こることが多く、その多くは2日以内に解熱しました。また、接種後の発熱は若年ほど多く、20代では2回目接種後の半数程度にみられたため、12歳以上の子どもへの接種においては学校が休みとなる前日に接種を行うことなどの配慮も必要と考えます。

●お子さんがワクチン接種を受ける場合や副反応が出た場合には、欠席扱いとされない出席停止等の措置をとることができるので、学校までご連絡ください。

Q. ワクチン接種後は、手洗いやマスクなどの感染対策を緩めても良いのでしょうか？

A. ワクチン接種後もマスクの着用、手指衛生の徹底、3密を避けるなどの感染予防対策を解除することはできません。新型コロナワクチンは非常に有効なワクチンですが、ワクチン接種をしてもその感染予防効果は100%ではなく、また、予防効果がどれだけ持続するかについても十分にわかっていません。更に、変異ウイルスによっては、効果が低下するワクチンがあることが報告されています。状況は変わる可能性がありますので、これまでの感染予防策を継続する必要があります。

Q. 複数の会社から新型コロナワクチンが製造されていますが、どれを接種しても良いのでしょうか？

A. 2021年7月14日現在、国内で12歳以上18歳未満に対する接種で使用できるのはファイザー社製のワクチンのみです。武田/モデルナ社製のワクチンは18歳以上が接種対象となっています。